

入園までの手続きの流れ

- ①受付期間 10月12日火～11月12日金
- ▼
- ②入園面接
- ▼
- ③入園承諾通知 平成23年1月下旬
- ▼
- ④保育料算定資料の提出 平成23年3月中旬予定（保護者の平成22年分源泉徴収票または確定申告書の写しが必要です）
- ▼
- ⑤入園 平成23年4月

対象

- 本町では、平成23年度の新規入園および来年度途中からの入園申し込みを次のとおり受け付けます。
- 町内在住で、**1から4**のいずれかの理由により、家庭で十分な保育を受けられない児童（保育できる祖父母などがいる場合を除く）。
- 児童の保護者が家庭の外に勤めている場合
- 児童の保護者が家庭内で児童と離れて日常の家事以外の仕事をしている場合
- 児童の保護者が長期の傷病や心身のうえお出かけください。

その他 各保育園は、隨時見学することができます。事前に保育園に連絡してお出かけください。

- 町立桜保育園 ☎ (59) 2201
- 町立三ツ星保育園 ☎ (56) 0043
- 私立徳山聖母保育園 ☎ (57) 2234

※保育時間などは、各保育園によって異なりますので、それをお問い合わせのうえお出かけください。

さゆり幼稚園の入園児を募集します

学校法人かわね学園さゆり幼稚園 ☎ (57) 2233

宗教・情操教育
自然への畏敬、神秘を受け止めることを大切にします。また、生まれてきたことを感謝し、お互い認め合い、穏やかな人と人との関係

問い合わせ

学校法人かわね学園さゆり幼稚園 ☎ (57) 2233 FAX (57) 2239

■知的発達活動
幼児の知的興味を誘う教材や道具を用い、教育課程に基づいた「遊び」を通じ、一人一人の個性に応じた発達を促します。

■音楽と表現活動

幼児の感性を養い心を育てるたぐさんの歌を歌います。身体表現や楽器演奏を通して、音楽の楽しさを体験します。

■運動指導・野外活動

幼児期に適切な運動や水泳の指導を通して、身体と共に知能の発育を促し、自信を育てます。野外活動の機会を多く持ち、自然への畏敬の念や探求心を養い、体力を増強します。

教育の方針

入園のご案内

を育てます。

■通園時間 8時30分から午後2時

40分

※電車通園、バス通園のお子さんは時刻表に合わせて停車駅まで送迎します。

※ご家庭の事情により、通常時間を越えての預かり保育を午後5時ごろまで実施します。

※第1、第3土曜には、小学生と合同の土曜学校を開催します。

■入園の条件 満3歳に達している子から入園できます。

※年度途中でも、3歳になった日から入園できます。

■休園日 土、日曜日、国民祝祭日

※第一回は、小学生と合同の土曜学校を開催します。

■納付金 幼稚園教育希望のご家庭

は、国と町から「就園奨励費」が所得に応じ支給されます。その他授業料などについてはお問い合わせください。

季節の野菜カレーに舌鼓 食推協が主催する食育スクールの第3回

本町健康づくり食生活推進協議会が主催する食育スクール第3回は8月21日、文化会館で開かれました。

参加者は食推協会員と小学生合わせて約20人。会員がそれぞれの班の指導者となり、子どもたちに料理方法を教えました。今回挑戦したのは夏野菜をたっぷり使ったカレーライス、レタスやキュウリなどを使ったサラダ、にんじんのゼリーなど。季節の野菜をふんだんに盛りこんだ料理の数々です。子どもたちは、野菜を切ったり、鍋を見守ったり、お皿を用意したりと、それぞれの役割を担い、楽しそうに取り組みました。

できあがった料理はみんなで試食。「すごくおいしくできた」「おかわりしたい」などの声が聞かれました。

食推協ではこの食育スクールのほかにも、支部同士の交流会や講習会など、年間を通じて活動しています。



会員の指導を受けながらサラダを作っています。

数々の功績に敬意を表し

故中原惣一郎さんご家族に叙勲を伝達

故中原惣一郎さん（満76歳）の生前の功績をたたえ、このほど叙勲「瑞宝双光章」が授与されました。

叙勲伝達式は静岡県庁で挙行され、川勝県知事の手から、ご家族へと叙勲が伝達されました。

故中原惣一郎さんは昭和35年11月、旧中川根村雇員として採用され、昭和36年から吏員として奉職。昭和54年10月から3期12年間、町収入役として在職し、健全な財政運用に尽力しました。平成3年10月から3年5ヶ月は町助役として在職。町制30周年を記念した各種事業の開催や役場新庁舎の移転改築、第3次中川根町総合計画の策定に深くかかわるなど、数多くの事業を推進し功績を残されました。



県庁で挙行された伝達式。川勝平太県知事と。

心のこもったもてなしを

花と緑の会が田野口駅で臨時一服どころ

田野口駅花と緑の会は8月28日、エコツーリズムの一環で大井川鐵道田野口駅を訪れたツアー参加者に対して、もてなしの心を込めた臨時の一服どころを設け、地場産品などを振る舞いました。東京都板橋区からバスで訪れた17人の参加者は、このほど改修が完了した田野口駅の駅舎でお茶を飲んで一休み。会員たちが用意した取れたて新鮮野菜や手作りの一品料理に舌鼓を打ちながら、地元の人たちとの交流を楽しみました。

参加者の男性は「懐かしさを感じました」とレトロな雰囲気を堪能した様子。約1時間の滞在を終えた参加者たちは、温かな触れ合いを惜しまむかのように、手を振りながらバスに乗り込みました。



（時計回りに）駅前で参加者と会員が記念撮影。駅のホームでボランティアの子を握手で見送り。参加者を精いっぱいもてなした鈴木恒子さん（会代表）。

川根本町まちの話題